

【第1部】基礎編 (Q1～Q20)

Q1. 答え：受身

解説：「叱ら」四段未然＋「る」終止形「る」。他者（親）から動作を受ける。「親に叱られる」。

Q2. 答え：尊敬

解説：「仰せ」下二段「仰す」未然＋「らる」。主語が上（高貴）。「上がおっしゃる」。

Q3. 答え：可能（の打消）

解説：「読ま」四段未然＋「れ」（る未然形）＋打消「ず」。「字が読めない」。

Q4. 答え：自発

解説：「泣か」（四段「泣く」未然）＋「るる」（自発「る」連体形。係助詞「ぞ」の結び）。「泣く」は心の動きを表す動詞。「故郷のことを思うと、わけもなく自然と泣けてくる」。

Q5. 答え：（参考）尊敬「す」連用形「せ」＋尊敬「たまふ」（二重尊敬）

解説：「る・らる」ではないが、混同しやすいので注意。「せ」は下の「たまふ」に続くので連用形。させる相手（「～に」）が書かれていないので尊敬で、帝がご自分でお書きになる（「せたまふ」で最高敬語）。

Q6. 答え：受身

解説：「吠え」（下二段「吠ゆ」未然）＋受身「らる」。「犬に」が動作主。「道で犬に吠えられる」。

Q7. 答え：尊敬

解説：「寝（ぬ）」下二段「寝（ぬ）」未然＋尊敬「らる」。主語が大臣（高貴）で、打消も心の動きを表す動詞もない。「大臣がもうお休みになる」。

Q8. 答え：受身（打消を伴う）

解説：「見」（上一段「見る」未然「み」）＋「らる」未然「られ」＋打消「ず」。「暗くて、人に見られない」。

Q9. 答え：自発

解説：「思ひ出で」下二段未然＋「らる」。心情系。「亡き人のことが自然と思い出される」。

Q10. 答え：自発

解説：「嘆か」四段「嘆く」未然＋自発「る」。「嘆く」は心の動きを表す動詞で、動作主（「～に」）もない。「世の中のはかなさを思うと、いっそう自然と嘆かれる」。

Q11. 答え：受身

解説：「飛ばさ」四段未然＋「る」。「風に飛ばされる」。

Q12. 答え：（参考）尊敬補助動詞「たまふ」

解説：「る・らる」ではないが、尊敬表現として重要。「御幸（ごかう）」は上皇・法皇などのお出かけ（天皇のお出かけは「行幸（ぎやうがう）」）。

Q13. 答え：可能の打消

解説：「書か」四段未然＋可能「る」未然形「れ」＋打消「ず」。「心が定まらないで、やはり書くことができない」。

Q14. 答え：自発

解説：「偲ば」四段未然＋「る」。「偲ぶ」は心情系。「自然と偲ばれる」。

Q15. 答え：尊敬

解説：「立て」（下二段「立つ」未然）＋尊敬「らる」。主語が大臣（高貴）。「大臣が使者をお立てになる（お遣わしになる）」。

Q16. 答え：受身

解説：「見あらはさ」（四段「見あらはす」＝見破る 未然）＋受身「る」。「人に」が動作主。「人に心の中を見破られる」。

Q17. 答え：尊敬

解説：「出で」下二段未然＋尊敬「らる」。主語が大納言（高貴）。「大納言が京をお出になる」。

Q18. 答え：自発

解説：「待た」（四段「待つ」未然）＋自発「る」。「待つ」は心の動き（待ち遠しく思う）を表す動詞。「ほととぎすの声が自然と待たれる（待ち遠しい）」。「聞こゆ」はそれだけで「（自然と）聞こえる」の意味なので、「らる」は付かない。

Q19. 答え：可能の打消

解説：「寝（ぬ）」（下二段「寝（ぬ）」未然）＋可能「らる」未然形「られ」＋打消「ず」。「寝（い）」は名詞（眠り）。「なんとなく恐ろしくて、眠ることもできない」。

Q20. 答え：受身

解説：「打た」四段未然＋「る」。「雷に打たれる」。

【第2部】標準編（Q21～Q50）

Q21. 答え：受身

解説：四段「笑ふ」未然＋「る」。「人に笑われる」。

Q22. 答え：尊敬

解説：「遣ら」（四段「遣る」＝送る 未然）＋尊敬「る」。主語が大納言（高貴）。「大納言が手紙を書いて、あの人のもとへお送りになる」。

Q23. 答え：可能の打消

解説：「歩ま」（四段「歩む」未然）＋可能「る」未然形「れ」＋打消「ず」。「足が痛いので、歩くことができない」。

Q24. 答え：自発

解説：心情系「思ひ出づ」。「自然と思い出される」。

Q25. 答え：受身

解説：四段「ひく」未然＋受身「る」。「人に」が動作主。「人に袖を引かれる」。

Q26. 答え：（参考）尊敬「す」＋尊敬「たまふ」（二重尊敬）

解説：「落とす」は四段動詞なので、未然形「落とさ」に接続するのは「す」（ここは「たまふ」に続く連用形「せ」）。涙を落とすのは上ご自身なので、使役ではなく尊敬。「らる」ではないが二重尊敬として混同しやすい。四段・ナ変・ラ変以外の動詞の未然形に接続するのが「さす」、四段・ナ変・ラ変の未然形に接続するのが「す」。

Q27. 答え：自発

解説：「悔い」（ヤ行上二段「悔ゆ」未然）＋自発「らる」（上二段には「らる」が付く）。「悔ゆ」は心の動きを表す動詞。「心細さに」の「に」は原因で、動作主ではない。「心細さのあまり、故郷を離れたことが、今になって自然と悔やまれる」。

Q28. 答え：自発

解説：「驚く」心情系。「自然と驚かれる」。

Q29. 答え：受身

解説：「縛らる」＝「縛られる」。

Q30. 答え：（参考）尊敬「す」＋尊敬「給ふ」（二重尊敬）

解説：「る・らる」と混同しないこと。笑うのは中宮ご自身なので、使役ではなく尊敬。「中宮がたいそうお笑いになる」。

Q31. 答え：可能の打消

解説：「帰ら」四段未然＋可能「る」未然形「れ」＋打消「ず」。「帰られず＝帰れない」。

Q32. 答え：尊敬

解説：主語が「上」（高貴）。「御覧になる」。

Q33. 答え：自発

解説：サ変「感ず」の未然形「感ぜ」＋自発「らる」（サ変には「らる」が付く）。「しみじみと（自然と）感じられる」。

Q34. 答え：受身

解説：「許さ」四段未然＋受身「る」未然形「れ」＋打消「ず」連体形「ぬ」（下の「恋」に続く）。打消があっても「親に」（動作主）があるので受身。「親に許されない恋」。

Q35. 答え：自発

解説：「惜しま」（四段「惜しむ」未然）＋自発「る」。「惜しむ」は心の動きを表す動詞。「散っていく花は、いつそう自然と惜しまれる」。

Q36. 答え：尊敬

解説：主語が上（高貴）。「内裏よりお出になる」。

Q37. 答え：受身

解説：「追は」四段未然＋受身「る」連用形「れ」＋完了「ぬ」。上に係助詞のない言い切りの「ぬ」なので完了で、打消ではない。「鬼に追われてしまった」。

Q38. 答え：自発

解説：サ変「案ず」（心配する）の未然形「案ぜ」＋自発「らる」。「旅に出ている子の身の上が、明けても暮れても自然と案じられる」。

Q39. 答え：受身

解説：「そしら」（四段「そしる」＝悪く言う 未然）＋受身「る」。「人に」が動作主。「人にひどく悪口を言われる」。

Q40. 答え：可能の打消

解説：「飲ま」（四段「飲む」未然）＋可能「る」未然形「れ」＋打消「ず」。「胸がつぶれる思いで、湯水も飲むことができない」。

Q41. 答え：（参考）使役「す」＋尊敬「たまふ」

解説：「人に」（させる相手）があるので使役。「大臣が人にお手紙を読ませなさる」。「せたまふ」でも、させる相手がいれば使役＋尊敬になる。

Q42. 答え：受身

解説：「襲は」（四段「襲ふ」未然）＋受身「る」。「物の怪に」が動作主。「夜、物の怪に襲われる」。

Q43. 答え：自発

解説：「ほほゑま」（四段「ほほゑむ」未然）＋自発「る」。うれしさなどの心の動きが思わず顔に出る、という自発。「幼い子が遊ぶ様子を見て、一人で思わずほほえんでしまう」。

Q44. 答え：尊敬

解説：「集め」（下二段「集む」未然）＋尊敬「らる」。主語が院（上皇）。「院が古い歌々をお集めになる」。

Q45. 答え：受身

解説：「妬ま」（四段「妬む」未然）＋受身「る」。主語は身分の高い女御だが、「人々に」（動作主）があるので受身。「その女御は、人々にねたまれる」。

Q46. 答え：自発

解説：「思ひ知ら」四段未然＋自発「る」。「思ひ知る」は心情系。「風の冷たさに、自分の袖の薄さが自然と思い知られる」。

Q47. 答え：受身

解説：「取ら」（四段「取る」未然）＋受身「る」。「盗人に」が動作主。「盗人に着物を取られる」。

Q48. 答え：（参考）二重尊敬「せ給ふ」

解説：「る・らる」ではない。

Q49. 答え：自発

解説：「思ひ続け」（下二段「思ひ続く」未然）＋自発「らる」。「明け方の鳥の声に、過ぎ去った日々のが次々と自然と思い続けられる」。

Q50. 答え：可能の打消

解説：「言われず＝言えない」。

【第3部】応用編（Q51～Q80）

Q51. 答え：受身

解説：他者「知る人」が動作主。「折られる」。

Q52. 答え：自発（連体形「るる」）

解説：「嘆か」（四段「嘆く」未然）＋「るる」（自発「る」連体形。下の「を」に続く）。「わが身のつらさが自然と嘆かれるのを、人に知られまい」。後半「知らるまじ」は「人に」があるので受身（「知られまい」）。

Q53. 答え：可能の打消

解説：「堪へ」（下二段「堪ふ」＝こらえる 未然）＋可能「らる」未然形「られ」＋打消「ず」。「気を強く持とうと思うけれど、悲しさに耐えることができない」。

Q54. 答え：（参考）使役「さす」＋尊敬「たまふ」

解説：「る・らる」ではないが、混同注意。「上げ」は下二段「上ぐ」の未然形なので「さす」が付く。「女房に」（させる相手）があるので使役。「中宮が女房に御簾を上げさせなさる」。

Q55. 答え：尊敬

解説：「帰ら」（四段「帰る」未然）＋尊敬「る」。主語が大臣（高貴）。「大臣が院の御所からお帰りになる」。

Q56. 答え：受身

解説：「恐れ」（下二段「恐る」未然）＋受身「らる」。「恐る」は心の動きを表す動詞だが、「鳥獣に」（動作主）があるので受身。「鳥や獣に恐れられる」。

Q57. 答え：可能

解説：「住ま」（四段「住む」未然）＋可能「る」終止形。打消はないが、「どんな所にでも住むことができる」と訳すと通る。鎌倉時代の『徒然草』には、このような肯定の可能も出る。「家の造り方は、夏を中心に考えるのがよい。冬は、どんな所にでも住むことができる」。

Q58. 答え：自発

解説：「思ひ出づ」心情系。「自然と思い出される」。

Q59. 答え：（参考）尊敬「さす」＋尊敬「給ふ」（二重尊敬）

解説：サ変「興ず」（おもしろがる）の未然形「興ぜ」には「さす」が付く（四段・ナ変・ラ変以外の動詞には「さす」）。おもしろがるのは帝ご自身なので、使役ではなく尊敬（二重尊敬）。「帝がたいそうおもしろがりなさる」。

Q60. 答え：受身

解説：上一段「射る」の未然形「射（い）」＋受身「らる」（上一段には「らる」が付く。「射ら」という形はない）。「敵に」が動作主。「敵に矢を射られる」。

Q61. 答え：尊敬

解説：「言は」(四段「言ふ」未然)＋尊敬「る」已然形「るれ」(係助詞「こそ」の結び)。主語が大將(高貴)で、「人々を召して」(尊敬語「召す」)と大將が自分で動いているので受身ではない。「大將こそが人々をお呼びになって、このようにおっしゃるのだ」。

Q62. 答え：自発

解説：「思ひ合はせ」(下二段「思ひ合はす」＝思い当たる 未然)＋自発「らる」連体形「らるる」(係助詞「ぞ」の結び)。「夢で見たことが、今になって自然と思い当たる」。

Q63. 答え：受身

解説：「倒さる」＝「(嵐に) 倒される」。

Q64. 答え：可能の打消

解説：「言ひ出で」(下二段「言ひ出づ」未然)＋可能「らる」未然形「られ」＋打消「ず」連体形「ぬ」。「ぬ」は下の「ぞ」に続く連体形なので打消(完了「ぬ」の連体形は「ぬる」)。「心に思っていることを口に出せないのが残念だ」。

Q65. 答え：尊敬

解説：「書か」(四段「書く」未然)＋尊敬「る」連用形「れ」＋存続「たり」。主語が大臣(高貴)。「大臣は、もうお手紙をお書きになっている」。

Q66. 答え：自発

解説：「思は」四段「思ふ」未然＋「る」。「思ふ」は心情系→自発。「月を見ると、自然と昔のことが思われる」。

Q67. 答え：尊敬

解説：「乗ら」(四段「乗る」未然)＋尊敬「る」終止形(「べし」は終止形に付く)＋「べし」連体形「べき」(係助詞「か」の結び)。道長が大納言(藤原公任)を敬う。「あの大納言は、どの船にお乗りになるのだろうか」。

Q68. 答え：受身

解説：「責められる」。

Q69. 答え：可能の打消

解説：「逢は」四段未然＋可能「る」未然形「れ」＋打消「ず」。「人に」は「逢ふ」相手を示す「に」で動作主ではないので、受身ではない。「山深い所なので、人にも会うことができない」。

Q70. 答え：尊敬

解説：「定め」(下二段「定む」未然)＋尊敬「らる」。主語が大臣(高貴)。「大臣が人々の官位をお決めになる」。

Q71. 答え：自発(連体形)

解説：「偲ば」(四段「偲ぶ」未然)＋自発「る」連体形「るる」(下の「を」に続く)。「故郷が自然と恋しく思われることを、人に語る」。

Q72. 答え：尊敬

解説：「詠ま」(四段「詠む」未然)＋尊敬「る」連体形「るる」(下の「歌」に続く)。主語が大納言(高貴)。「大納言がお詠みになる歌は、たいそう趣がある」。

Q73. 答え：受身

解説：「降り籠め」(下二段「降り籠む」＝雨が降って人を閉じこめる 未然)＋受身「らる」連用形「られ」＋完了「ぬ」。上に係助詞のない言い切りの「ぬ」なので完了で、打消ではない。「笠もないので、雨に降りこめられてしまった(外へ出られなくなった)」。

Q74. 答え：自発

解説：「思ひ知ら」(四段「思ひ知る」未然)＋自発「る」。「思ひ知る」は心情系。「自分の身の程が、自然と思い知られる」。

Q75. 答え：可能の打消

解説：「こちらへ近く参ることができない」。

Q76. 答え：尊敬

解説：主語が大宮（高貴）。「お書きになる」。

Q77. 答え：自発

解説：「物思は」（四段「物思ふ」未然）＋自発「る」。「物思ふ」は心の動きを表す動詞。「秋の夕暮れは、なんとなく自然と物思いにふけってしまう」。

Q78. 答え：受身

解説：「落とさ」（四段「落とす」未然）＋受身「る」。「敵に」が動作主。「敵に馬から落とされる」。

Q79. 答え：尊敬

解説：主語が院。「お顔色をお改めになる」。

Q80. 答え：自発

解説：「思ひやら」（四段「思ひやる」＝遠くの人に思いをはせる 未然）＋自発「る」。「遠い国にいる人の身の上が、気の毒に自然と思いやられる」。

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

Q81. 答え：自発

解説：尊敬語「思す」（お思いになる）の未然形「思さ」＋自発「る」。尊敬は「思す」が表していて、心の動きを表す動詞に付く「る」なので自発。「帝は、その人の気立てを、格別にしみじみとすばらしいと、自然とお思いになる」。

Q82. 答え：受身

解説：「散らさる」＝「散らされる」。

Q83. 答え：自発

解説：尊敬語「思し出づ」（思い出しなさる）の未然形「思し出で」＋自発「らる」。尊敬はすでに「思し出づ」が表していて、心の動きを表す動詞に付く「らる」なので自発（「思さる」と同じ）。「院は、亡き宮のことを、たいそうしみじみと自然と思い出しなさる」。

Q84. 答え：受身

解説：「召し出ださ」（四段「召し出だす」＝お呼び出しになる 未然）＋受身「る」。「召し出だす」はそれだけで尊敬語。ここは「院に」（動作主）があり、呼び出されるのは翁なので受身。「その老人は、歌を上手に詠むというので、院に呼び出される」。

Q85. 答え：尊敬

解説：「見」（上一段「見る」未然）＋尊敬「らる」。主語が中納言（高貴）。「中納言が御簾を上げて、月を御覧になる」。

Q86. 答え：可能の打消

解説：「行くことができない」。

Q87. 答え：受身

解説：「用ゐ」（ワ行上一段「用ゐる」未然）＋受身「らる」。「世に」（世間の人々）が動作主。「和歌の道にすぐれているので、世間で重く用いられる」。

Q88. 答え：自発

解説：「うち泣か」（四段「うち泣く」未然）＋自発「る」連用形「れ」＋尊敬「給ふ」。「れ給ふ・られ給ふ」の「る・らる」は尊敬ではない。「泣く」は心の動きを表すので自発。「大将は、亡き院のことをお思いになって、自然とお泣きになる」。

Q89. 答え：尊敬

解説：主語が中将（高貴）。四段「持ち参る」未然形「持ち参ら」＋尊敬「る」。「参る」は謙讓語（参上する）。「中将がお手紙を持って参上なさる」。

Q90. 答え：可能の打消

解説：「起き上がることができない」。

Q91. 答え：受身

解説：「思は」（四段「思ふ」未然）＋受身「る」連体形「るる」（下の「嫁の君」に続く）。「思ふ」は心の動きを表す動詞だが、「姑に」（動作主）があるので受身。「思はる」は「（人から）大切に思われる」。「めったにないもの。舅にほめられる婿。また、姑にかわいがられるお嫁さん」。

Q92. 答え：自発

解説：「惑は」（四段「惑ふ」＝迷う 未然）＋自発「る」。「惑ふ」は心の動きを表す動詞。「心の闇に」の「に」は原因・場面を表す「に」で、動作主ではない（「惑ふ」は自動詞）。「（子进行を思う）心の闇に、自然と迷ってしまう」。他動詞「惑はす」の受身なら「惑はさる」になる。

Q93. 答え：尊敬

解説：「奏せ」（サ変「奏す」＝帝に申し上げる 未然）＋尊敬「らる」。謙讓語「奏す」で帝を、尊敬「らる」で主語の大臣を敬う。「大臣が、このことを帝に申し上げなさる」。

Q94. 答え：自発

解説：「思は」（四段「思ふ」未然）＋自発「る」連体形「るる」（係助詞「ぞ」の結び）。「秋風が身にしみるにつけても、都のことばかりが自然と恋しく思われる」。

Q95. 答え：受身

解説：「問はる」＝「罪に問われる」。

Q96. 答え：尊敬（下の「ぬれ」は完了）

解説：「下り」（上二段「下（お）る」未然）＋尊敬「らる」連用形「られ」＋完了「ぬ」已然形「ぬれ」＋「ば」。「ぬれ」は完了（打消なら「ねば」）。主語が大將（高貴）。「大將がお車からお降りになったので、人々はみなかしこまる」。

Q97. 答え：自発

解説：「恨み」（上二段「恨む」未然）＋自発「らる」（上二段には「らる」が付く）。「恨む」は心の動きを表す動詞。「言いようもなく心細いので、訪ねて来ない人ばかりが自然と恨めしく思われる」。

Q98. 答え：尊敬

解説：「出家せ」（サ変「出家す」未然）＋尊敬「らる」（サ変には「らる」が付く。「せ」は動詞の一部で、使役の「す」ではない）。主語が大納言（高貴）。「大納言は、世の中をはかないものと思って、出家なさる」。

Q99. 答え：前半＝可能の打消、後半＝自発

解説：前半は「眠ら」四段未然＋可能「る」未然形「れ」＋打消「ず」で「眠れない」。後半は「泣き明かさ」（四段「泣き明かす」未然）＋自発「る」で「（つらさに）自然と泣いて夜を明かしてしまう」。

Q100. 答え：自発

解説：「ながめ」（下二段「ながむ」＝物思いにふけてぼんやり見る 未然）＋自発「らる」連体形「らるる」（係助詞「ぞ」の結び）。「月が出たので、ふと空を自然と眺めて物思いにふけてしまう」。